

実践報告

コロナ禍における図書館の取り組み

加藤 亜津沙*・高城 智圭*・藤井 聖子*・田口 豊恵*

I. はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、政府は「新しい生活様式」を提唱しており、これまでの日常生活の変化を余儀なくされた。

本学図書館も利用方法やサービスの提供について変えざるを得なくなった。コロナ禍で本学図書館が実施した感染症対策と、電子図書の利用状況および今後の活動の方向性について報告する。

II. 図書館で実施した対策について

コロナ禍において、1. 全ての授業をオンラインで実施していた期間と、2. 学生の登校を一部可とし、対面授業とオンライン授業を並行して実施していた期間のそれぞれについて報告する。

1. 学生の登校を禁止し、全ての授業をオンラインで実施していた期間

学生の登校を禁止し、全ての授業をオンラインで行っていた期間中は、来館による図書館の利用を禁止し、自宅から利用できる電子図書やデータベースの利用のみを可とした。

2. 対面授業とオンライン授業を並行して実施していた期間

学生の登校を一部可とし、対面授業とオンラ

イン授業の並行で実施した期間は、他大学図書館からの文献取り寄せ等、一部のサービスを停止したものの、下記の①～⑨の対策をしながら開館した。

- ①新型コロナウイルス感染症対策版の図書館利用案内パンフレットを作成し、全学生に配布し、周知した。
- ②図書館内では一方通行で移動するように案内した。床にカラーテープを貼って矢印を書き、ルートを示した。
- ③図書館前に手指アルコール消毒液を設置し、必ず消毒をしてから、入館するように案内した。
- ④実習のため登校する学生については、入室時間や人数を設定したものの、学習効果を上げるため図書館の利用を可とした。
- ⑤各書棚の間には2名以上の滞在を避けるように案内した。利用者が12名を超える場合は入館制限を行い、密になることを避け、ソーシャルディスタンスを保てるようにした。
- ⑥利用時間を昼休憩と放課後のみに限定した。
- ⑦開館時間中は、入り口と一部の窓を開放し、換気扇を回して、空気の入替を徹底して行った。
- ⑧共用スペースであるDVD視聴コーナー、閲覧席の使用は禁止とし、館内での自習も禁止とした。
- ⑨なるべく接触を減らすために本の返却は返却ボックスのみで実施した。

*京都看護大学

Ⅲ. 電子図書の利用について

登校できない中でも、学生が自宅で学習を進めることができるように、電子図書の活用を促した。ここでは、1. 電子図書の活用に向けて取り組んだこと、2. 電子図書を含めた図書館の利用状況調査の結果について報告する。

1. 電子図書の活用に向けて取り組んだこと

新型コロナウイルス感染症の影響で大学に登校出来ない学生に対して、自宅から利用できるデータベースや電子図書の使用方法に関するマニュアルを作成し、学生に掲示した。

本学図書館では、毎年4月に新入生を対象とした図書館オリエンテーションを実施している。今年はオンラインで実施した。オリエンテーショ

ンに必要な資料は事前に学生の自宅へ郵送した。当日は、資料とあわせてオンラインで詳細を説明し、実際にデータベースや電子図書を使用する様子を見せながら実施した。

Maruzen eBook library の利用回数の推移を図1に示す。2020年4月以降、前年の同月と比較し、利用回数の顕著な増加がみられた。また、後述するアンケート結果を踏まえ、電子図書の存在を知らない学生や利用方法がわからない学生を減らすことが重要であると考え、改善策を検討した。すぐに取り組める改善策の一つとして、電子図書で利用できる本のタイトル一覧に簡潔な内容紹介を加えたものを作成した。さらにタイトル一覧にリンクを付け、学生が関心を抱くとすぐに目的の電子図書へアクセスできるように工夫した。これらを学生に周知した。

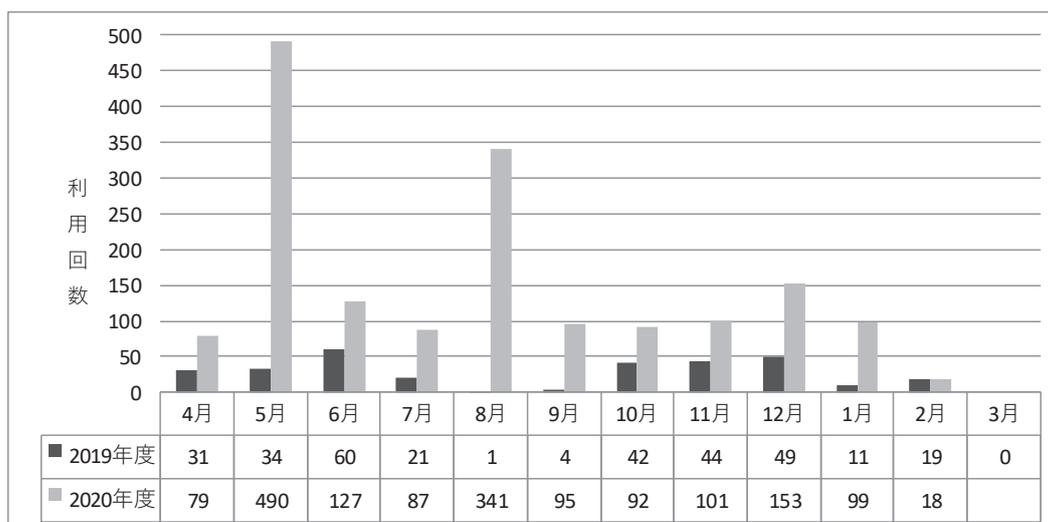


図1 Maruzen eBook library 利用回数

表1 回答数

	対象数 (人)	回答数 (人)	(%)
全体	443	394	(88.9)
学部1年	119	113	(95.0)
学部2～4年	310	269	(86.8)
大学院1年	8	6	(75.0)
大学院2年	6	6	(100)

2. 電子図書を含めた図書館の利用状況調査の結果 (表1)

電子図書を含めた図書館の利用状況を把握することを目的に、学部生と大学院生を対象にオンラインで図書館アンケートを実施した。実施期間は2020年8月4日から8月28日である。対象者443人のうち、394人から回答が得られた(回答率88.9%)。

1) 2020年4月～7月の電子図書の利用状況について

電子図書の利用をしたことがあると回答した者は136人(34.5%)であった。利用しなかった理由として、「電子図書を知らない」「使い方がわからない」と回答した者が258人(66.3%)を占めた。特に、学部2～4年生の70%以上がそのように回答した。利用したデータベースを尋ねたところ、「ナーシングスキル」が最も多く215人(54.6%)、次いで「医中誌web」203人(51.5%)、メディカルオンライン149人(37.8%)であった。ホームページ等で掲示している「電

子図書・データベースの利用案内」のわかりやすさについて尋ねた結果、「非常にわかりやすい」「わかりやすい」と回答した者は212人(53.8%)であった。学部2～4年生では24人(8.9%)が「わかりにくい」「まったくわからない」と回答していた(表2)。

2) 2019年4月～2020年3月の図書館の利用について

学部2～4年生と大学院2年生に昨年度の図書館の利用頻度および利用目的について尋ねた。最も多かった回答は「テスト前・実習前のみ」82人(29.8%)であり、次いで「月に数回程度」63人(22.9%)、「ほとんど利用しない」62人(22.5%)であった。学部2～4年生については、「ほとんど毎日利用する」「週に数回程度利用する」と回答した者は19人(7.1%)であった。また、利用目的で最も多かった回答は「図書を借りるため」160人(58.2%)であり、次いで「図書・雑誌を読むため」75人(27.3%)、「閲覧席で学習するため」56人(20.4%)であった(表3)。

表2 電子図書およびデータベース 利用回数 (2020年4月～7月)

		学部1年		学部2～4年		大学院1年		大学院2年		全体	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
利用の有無	あり	53	(46.9)	82	(30.5)	0	(0)	1	(16.7)	136	(34.5)
	なし	60	(53.1)	187	(69.5)	6	(100)	5	(83.3)	258	(65.5)
利用なしの理由	知らない	27	(23.9)	77	(28.6)	1	(16.7)	3	(50.0)	108	(27.4)
	使い方がわからない	36	(31.9)	112	(41.6)	2	(33.3)	0	(0)	150	(38.1)
	必要がない	15	(13.3)	39	(14.5)	0	(0)	1	(16.7)	55	(14.0)
	その他	35	(31.0)	41	(15.2)	3	(50.0)	2	(33.3)	81	(20.6)
	利用したデータ	医中誌web	73	(64.6)	120	(44.6)	6	(100)	4	(66.7)	203
ベース (複数回答)	メディカルオンライン	40	(35.4)	100	(37.2)	6	(100)	3	(50.0)	149	(37.8)
	CINAHL	3	(2.7)	17	(6.3)	2	(33.3)	2	(33.3)	24	(6.1)
	ナーシングスキル	84	(74.3)	129	(48.0)	2	(33.3)	0	(0)	215	(54.6)
	CiNii	40	(35.4)	77	(28.6)	5	(83.3)	2	(33.3)	124	(31.5)
	利用案内のわかりやすさ	非常にわかりやすい	21	(18.6)	34	(12.6)	0	(0)	0	(0)	55
	わかりやすい	63	(55.8)	89	(33.1)	2	(33.3)	3	(50.0)	157	(39.8)
	どちらでもない	24	(21.2)	122	(45.4)	4	(66.7)	2	(33.3)	152	(38.6)
	わかりにくい	5	(4.4)	17	(6.3)	0	(0)	0	(0)	22	(5.6)
	まったくわからない	0	(0)	7	(2.6)	0	(0)	1	(16.7)	8	(2.0)

表3 図書館の利用について (2019年4月～2020年3月)

		学部2～4年		大学院2年		全体	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)
利用の頻度	ほとんど毎日	5	(1.9)	0	(0)	5	(1.8)
	週に数回程度	14	(5.2)	1	(16.7)	15	(5.5)
	月に数回程度	61	(22.7)	2	(33.3)	63	(22.9)
	年に数回程度	47	(17.5)	1	(16.7)	48	(17.5)
	テスト前・実習前のみ	82	(30.5)	0	(0)	82	(29.8)
	ほとんど利用しない	60	(22.3)	2	(33.3)	62	(22.5)
利用目的 (複数回答)	図書・雑誌を読むため	72	(26.8)	3	(50.0)	75	(27.3)
	図書を借りるため	157	(58.4)	3	(50.0)	160	(58.2)
	閲覧席で学習するため	56	(20.8)	0	(0)	56	(20.4)
	データベースを利用するため	36	(13.4)	0	(0)	36	(13.1)
	通りすがり	22	(8.2)	1	(16.7)	23	(8.4)

Ⅲ. 図書館の業績について

2020年5月に京都看護大学紀要「京都看護第4号」、2021年3月に第5号を発行した。第4号と第5号では、コロナ禍における教育の挑戦や教育実践報告等を掲載した。

また、2021年3月より機関リポジトリの運用を開始した。機関リポジトリで公開することによって、インターネット上で利用できるようになり、学内外からの利用が期待できる。研究活動および教育実践の共有の場として本学の紀要をより多く閲覧、活用していただけるように、今後充実させていきたいと考えている。

Ⅳ. 今後の図書館の取り組みについて

コロナ禍において、自宅からいつでも利用できる電子図書やデータベースは、学習を継続す

るためには不可欠である。本学では、開学時よりICT教育を推進しており、コロナ禍前から電子図書やデータベースの学外における活用を可能としていた。しかし、今回の調査結果から、学生の積極的な活用にはまだ多くの改善点が存在することが明らかとなった。特に図書館に求めることとして、「閲覧できる電子図書を増やしてほしい」という要望が最も多く寄せられた。今後は、学年別に設けている図書委員とも連携し、学生からの要望を把握することや、教職員の協力も得ながら学生の学びにつながるような電子図書やデータベースの充実を図っていきたい。そして図書館利用に関する学生の「分からない」、「知らない」を減らし、学生の学びをより深化させることにつながるような取り組みについて、図書館として今後も検討を重ねていきたいと考えている。